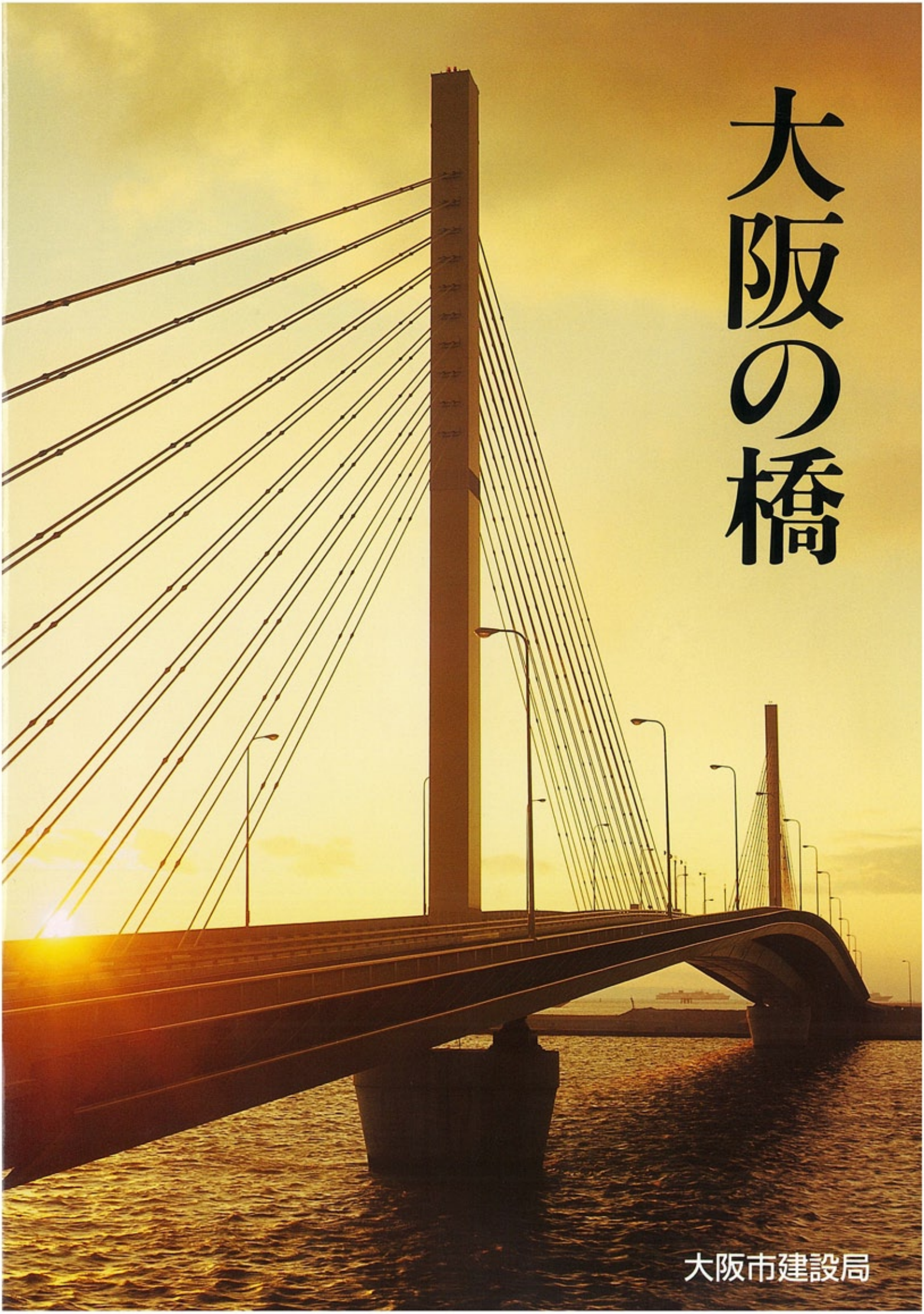
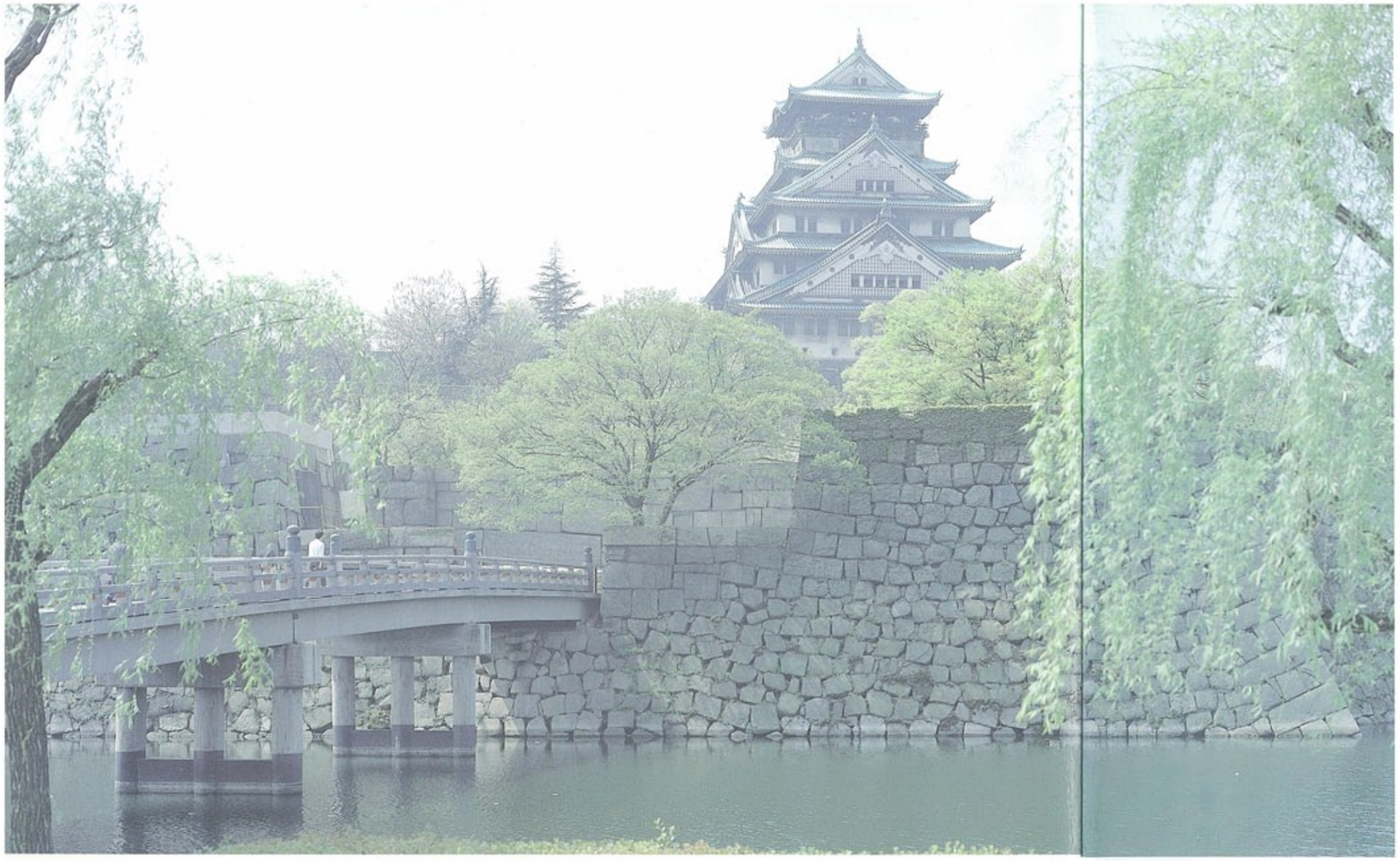


大阪の橋

大阪市建設局



ごあいさつ

大阪は、遠く難波宮の造営にみられるように、都市として1000年を超える歴史と文化を持っております。

この伝統を踏まえて明治・大正・昭和の三代にわたって、上下水道・港湾・地下鉄・道路・公園など近代都市大阪の基盤が構築されてきました。

なかでも、「なにわ八百八橋」といわれるように、橋は水の都大阪にあって都市の交通機能を支えると同時に、美しい都市景観を演出し、多くの市民に親しまれている貴重な都市施設であります。

大阪の橋の発展過程をみるとき、そこには先人たちの英知と勇断、とりわけ、新しい技術の開発と実現に向けてのたゆまざる挑戦と熱意のあとがうかがわれます。

大阪市は、2年後の昭和64年に迎える市制100周年をステップとし、21世紀に向かってさらに大きな飛躍をとげるため、今、着実な歩みを続けています。

世界に貢献する国際都市をめざして、人と物の交流の拠点となる関西国際空港の建設とともに、先端技術の研究開発や通信・交易機能の集積を図る「テクノポート大阪計画」を積極的に推進しております。

また、新しい都市文化の創造をめざして、昭和65年に「国際花と緑の博覧会」が鶴見緑地で開かれることになり、その準備が着々と進められています。

新しい時代に向かって、理想の都市を築くため、橋梁技術をはじめとする先人たちの100年に及ぶ近代都市建設の成果を基盤として、より美しい都市景観と香り高い文化を誇る町、魅力ある国際都市、活力あふれる大阪をめざして、今後とも積極的に市政を推進してまいりたいと存じます。

昭和62年5月

大阪市長

もくじ

第1章 橋の役割……4
渡る……4
支える……6
守る……8
観る……10
憩う……12
集う……14
第2章 橋の歴史 八百八橋ーいまむかし…16
古代・中世の橋……18
近世の橋……20
近代の橋……24
現代の橋……30
第3章 橋をつくる……32
橋のかたち……32
橋の構造……33
橋のできるまで……34
橋の建設と管理……36
第4章 橋さまざま……38
高欄……39
親柱……40
照明灯……41
由来碑……42
橋詰広場……43
旧淀川に架かる橋梁群……44
年表……46

発刊にあたって

大阪は、古来より水陸両面の交通の要衝であり、政治・経済の中心地として今日まで栄えてきました。

その発展の歴史をみますと、橋が大きな役割を果たしてきたことがうかがえます。

記録に残る日本最古の橋とされる仁徳朝における猪甘津の橋は、河内の開発が河川改修を中心として行われたことを示しているように思われます。

大阪の開発が進むのは、秀吉の大阪築城の頃からともいわれますが、江戸時代には大阪は全国の経済の中心地として一層栄えました。

その背景には堀川の開削とともに多くの橋の新設や架け換えが行われ、交通網が整備されたことが大きく貢献したものと考えられます。

橋は、時の経過とともにいつしか「なにわ八百八橋」と呼ばれ人々の生活の中へ定着し、日常の生活に欠かせないものになっていきます。

橋は、旅の起終点となり、人々が集う場となり、あるときは涼を求める人々の散策の場ともなります。

近松門左衛門の戯曲の中に橋の場面が多く登場するのは、大阪の人々にとって橋が非常に身近な存在であったことを示しているといえます。

大阪は、川とそこに架けられた橋に特徴づけられた街であるともいえます。

現在、私たちが見ることができる大阪市の骨格が造られたのは、明治以降のことであり、水の都大阪のシンボルである中之島の美しい橋梁群などは、大正10年にスタートした大阪都市計画事業によって整備されたものであります。

都市の交通機能の充実や交通の円滑化を図るために、これからも道づくり・橋づくりを積極的に進める必要がございますが、先人たちの街づくりへの想いに配慮を加えつつ、なお一層の努力をしていかなければならないと考えております。

昭和62年5月

大阪市助役　近藤 和夫

序

大阪市内には、およそ800の橋があり、大阪の交通ネットワークを支える施設として、重要な位置をしめております。

また、橋は川辺の風景と調和し、水の都大阪にふさわしい、すぐれた都市景観を形成する要素ともなっております。

大阪の橋を代表するものとして、古くから「なにわ三大橋」と呼ばれる天満橋・天神橋・難波橋があります。

これらの橋が初めて架けられたのは、おそらくは豊臣時代から江戸初期にかけてのことと思われますが、時の経過とともに、人々の生活に欠かすことのできない大切な橋になっていったものと考えられます。

そして、江戸時代の寛永の頃には幕府が直接管理する公儀橋になり、天下の台所・大阪の繁栄を支える重要な役割を果たしてきました。

江戸期を通して、石造りを除いて橋はすべて木橋でありました。

このため、洪水等による破損や流失とそれにともなう補修や架け換えが幾度となくくり返されたに違いありません。

しかし、明治に入ると、木橋から災害に強い鉄橋へと橋の近代化が進められ、「三大橋」もまた、今からおよそ100年前の明治中頃に新しく鉄橋に生まれ変わりました。

そこでこのたび、「なにわ三大橋」の近代化100年を迎えるにあたり、「大阪の橋」を発刊する運びとなったものでございます。

本冊子が「なにわ八百八橋」といわれる大阪の橋について、皆様方のご理解をより深めていただくための一助ともなれば望外の喜びでございます。

昭和62年5月

大阪市土木局長　橋本 固